

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501574		
法人名	有限会社 厚生会		
事業所名	グループホームなのはな		
所在地	三重県津市柳山津興3306		
自己評価作成日	平成23年8月5日	評価結果市町提出日	平成23年10月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokuhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470501574&amp;SCD=320&amp;PCD=24">http://www.kaigokuhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470501574&amp;SCD=320&amp;PCD=24</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 23 年 9 月 14 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設に、協力医療機関である、ゆり形成内科整形があり、緊急時にも直ぐに受診が出来、医療度の高い利用者にも安心して過ごしていただけるような体制になっている。誕生会や夏祭り等のレクリエーションや各種研修会を通じて、入居者、職員、地域の方々との交流を深めていくようにしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

街中にある事業所なので周囲に緑は乏しいが、近隣には洋品店や食料品スーパーなどがあり、生活面で過ごしやすい場所である。また、交通アクセスが良いので、車に乗れない家族でも公共交通機関やタクシーの利用などで訪問をしやすい所である。同じ建物内の1階に母体である、ゆり形成内科整形医院があり、2階に当事業所があるので、医療との密接な連携が取れることは家族にも利用者にも大変な安心感を与えている。交代したばかりの管理者は今まで介護現場にいた実績を活かして、職員とはフランクに話し合い、より質の高い介護をめざしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員は名札の裏に理念のカードを携帯し、施設内各所に掲示し、実践につなげている。又、毎朝礼時に職員で唱和することで、理念を忘れず実践につなげている。	復唱による理念の共有に努めると共に、日々めりはりのある生活を志して、利用者に笑顔が生まれることを喜びとし実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に参加し、夏祭りの催し、諸行事等を地域住民に回覧等で発信している。	自治会の草取りに参加したり、夏祭りには地域の人への参加を呼び掛けたりしている。自治会も高齢者が多いので、利用者の見守りをお願いするなどして交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各種研修会、勉強会を開催し地域住民の参加を募っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、自治会長及び家族様より、意見や要望、質問等を頂き、今後のサービス向上に活かしている。	2か月に一度の開催を実施しており、自治会長、市職員、家族、利用者などの出席で毎回熱心な討議をしている。特に3月11日以降は自然災害についての勉強会をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所へ訪問したり、担当者には運営推進会議へ参加して頂き、相談や助言を頂き、協力関係を築いている。	介護保険の代理申請や法的対応の相談で連絡をとったり、運営推進会議への出席時に課題を聞くなど、常に協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険法指定基準における禁止の対象となる、具体的な行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体的拘束は行われていない。利用者には強制ではなく、自己決断を第一とし、精神的な拘束をしないこと目指している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について、所内研修を行い、管理者や職員は虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者1名が成年後見制度を利用しているため、所内研修を行い、対応に混乱がない様努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時に不安、疑問に答え説明をし、十分に納得していただく様図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族より意見、要望を面会時及び意見箱などで受け入れ、運営に反映させている。	現在胃ろうの方が3人見えるが、家族と十分に話し合い希望を聞き、医療提携を活かした取り組みとして、経口に移す努力をするなど、利用者家族の意見を活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを開催し、意見や提案を検討し、反映させている。	管理者は交代したばかりであるが現場経験者である。今までの同僚感覚から、職員は利用者に対する提案や個人的な相談など、気軽に意見が言い合える関係にあり、運営に意見や提案を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働ける様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は一人ひとりの力量を把握し、介護技術の向上の為に、研修に参加する様勧めしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者間の勉強会、研修、情報交流を行い、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学時や相談時、本人が困っている事、不安、要望を聞き、安心して生活できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族より困っている事、不安や要望を聞き、信頼を得、より良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、他のサービス利用の説明や、資料の提供等を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な雰囲気大切に、小さな事でも気軽に話が出来る関係を築く様努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者、家族、職員のみならず、常に情報の共有が出来る関係を築く様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限をせず、都合の良い時間に気軽に来所出来る様配慮している。	自治会長の訪問や近所の人に来てくれるなど馴染みの人との関係への配慮や、昔、勤務していた会社や自宅周辺へ出かけたりして、馴染みの場所との思いも途切れないように支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の意思を尊重し、孤立せず、お互いがより良い関係を持てるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、これまでの関係を大切に、広報誌の送付や催し物の案内をし、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思い、暮らし方の希望や意向を聞き、意向の把握に努めている。困難な場合は検討し、本人本位を大切にしている。	今日は一日この方の話を聞くと決めて徹底的に聞くことに努めたり、夜勤の時にマンツーマンで話を聞くなど、思いを把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、医療機関及びその他関係機関から、これまでのサービス利用の経過把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活を把握し、日々の変化を見逃すことなく、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を行い、現状報告をし意見交換を行っている。現状に即した介護計画を作成している。	介護計画作成者は介護記録や職員の意見の反映、更に担当者会議でドクターや理学療法士などの参加により意見交換を実施し、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人カルテ、業務日誌の記入、申し送り時に報告、検討し情報の共有を図り、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに対応し、同一建物内の他サービスと連携し、支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて、他機関と協力し、安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の要望を大切に、納得の得られた、かかりつけ医や隣接のクリニックと提携し、適切な支援をしている。	一人のみ、従来のかかりつけ医としているが、後は全員、協力医の受診をしている。眼科など専門医には家族の協力支援を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態に変化がある場合、医師や看護師に伝え、適切な受診や看護を受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度や末期の利用者がいる場合、日々をより良く過ごせるように、かかりつけ医と共に支援に取り組んでいる。	入居時に重要事項書の『重症化した場合』と『看取りに関する対応指針』を説明し同意を得ているが、実際の緊急時には、その都度、家族の思いを聞き、全体で支援に取り組んでいる。100歳超の方の看取りを行った実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は応急手当や初期対応の訓練を、定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を職員は身につけている。地域住民の協力を得られるよう自治会長を通じて働きかけている。	3月の避難訓練で実際に指定避難所まで歩いて避難を行ったが、消防とも相談し9月の訓練では地域の方に利用者の見守りをお願いして協力体制を築いていく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当施設の理念にある、プライバシーの保護に基づいて、声かけや行動に十分注意し対応している。	理念にも謳ってある通り、幼児言葉を使わない様に気を付けている。「～をしてやらなあかん」という目線ではなく、その人ができることできないことを見極めた自己尊重を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりにあった、言葉かけや説明をし、利用者本人が決め、納得し生活できる様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り個々の希望に沿って、個人のペースで過ごして頂くよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身嗜みやお洒落ができる様支援している。 希望があれば理容師の来所や馴染みの店へ、出かけられる様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみとなるよう、一人ひとりの好みや力を活かし、野菜の下ごしらえや準備、片付けを手伝って頂いている。	4月から栄養士が入り、献立・買い出し・調理をしている。管理者は毎朝、献立をチェックし利用者が一緒にできることを増やすように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や力、習慣に応じて、粥、キザミ、ペースト食を支援している。 食事、水分量を毎食後チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、利用者個人の能力に応じた、うがいや義歯洗浄の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の能力や排泄パターンを理解し、気持ちよく排泄出来る様支援している。 一人ひとりの能力に応じて、オムツ、リハビリパンツ、トイレ誘導で対応している。	布パンツをはきたい希望が強い意志の方には、洗濯の枚数が増えても本人の意思を尊重して支援を続けている。その他の方は、尿便意の確認をしてできる限り現状維持で頑張れるようトイレ誘導支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防と対応の為、飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。 食事、水分摂取量を把握し個々の管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大浴場にてゆったりと入浴を楽しんで頂いている。 各ユニットに浴室が設置されており、希望者にはその都度対応している。	午前中週4日の入浴を基本として土曜日を予備日としているが、汚染時には随時の対応をしている。寝たきりの方はデイサービスの機械浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思を尊重し、ホールでくつろいで頂いたり、居室で休んで頂く等の対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬ファイルを活用し、服薬している。 薬の目的、副作用、用法、用量を理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせる様、一人ひとりの楽しみ、趣味、手仕事を個々に活かしていける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って、その都度対応している。 施設周辺の散歩時、挨拶や話をし、交流が持てるよう支援している。	外の空気にふれてもらえるよう努力をしている。日常的には散歩やドライブ、近隣のスーパーへの買い物等、希望に沿って対応している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は利用者がお金を持つ事を理解しており、お金の所持や使用を支援し、希望時には、買い物に出かけたり、個人に応じた対応をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より依頼があれば意向を尊重し、電話をしたり、手紙のやりとりができる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温は細めに調整し、穏やかに過ごして頂ける様配慮している。 照明は全て電灯色を使用している。	窓の開閉を心掛けて外の風を入れ、暑さ・寒さを感じてもらおう五感刺激に配慮している。 テーブルに稲穂など季節の花を飾り、季節感を感じられる工夫もしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には畳コーナーやソファが設置されており、利用者同士の語らいの場となるよう配慮されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みのもを持ち込んでいただき、家具は本人の使い勝手の良いように自由に配置して頂いている。	ベッド、床頭台、整理ダンスが備品として備えられているので持ち込み家具は少ないが、壁には家族の写真やカレンダーなどを飾り、安心して過ごせる部屋づくりをしている。特に居室入り口付近には杖などが引っかからない様にとの注意と工夫もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動ができる様、手すりが設置されており、緊急時にはベットごと移動できる空間が確保されている。		